

# 外国語授業実践ワークショップ

## 「学びを深める “文化” の再考」

- 日 時：2014年1月12日（日）13:30～16:45（受付開始13:00）
- 場 所：（株）講談社 201 会議室（〒112-8001 東京都文京区音羽 2-12-21）
- 参加費：無料
- 主 催：外国語授業実践フォーラム、公益財団法人国際文化フォーラム（TJF）
- 講 師：独立行政法人国際交流基金 日本語国際センター参与 中野佳代子氏
- 参加者：59名（運営スタッフ除く）

第一担当言語別：

韓国語：16名、日本語：14名、中国語：9名、フランス語：8名、ドイツ語：6名、  
スペイン語：3名、英語：1名、ロシア語：1名、イタリア語：1名、

所属別：

大学（大学院含む）：36名、民間：12名、高校：5名、所属先なし：6名

### ■概 要：

「外国語学習のめやす2012（以下「めやす」）<http://www.tjf.or.jp/meyasu/>」作成プロジェクトの監修者である中野佳代子氏を講師に迎え、講演とワークの2部構成で開催した。「めやす」が学習領域として提示している言語、文化、グローバル社会の3領域のうち、今回は文化領域に焦点をあて、そこからどのように実際の学びを深めることができるかについての講演に続いて、「めやす」を取り上げながら、文化を取り入れた授業の流れを実際に作るグループワークを実施した。

### 第一部 講演 90分

中野氏の講演内容は、以下のとおり。

- 外国語学習で文化の学びはなぜ重要なのか  
キーコンピテンシー/21世紀型スキルの視点から
- 「外国語学習のめやす」：なぜ3×3+3？  
人間教育の視点から
- 外国語学習で文化領域はどう位置づけられてきたか  
外国語教育のアプローチの視点から
- 文化領域の学習目標・内容・方法を考えるための参照枠  
外国語授業実践ワークに向けて

### 第二部 ワーク

(1) 講演に関する質疑応答 10分

(2) ワーク 25分 (個人ワーク 5分、言語別グループワーク 20分)

講演内容を踏まえ、ワークでは以下のことをまず個人で、その後グループで(言語別にわかれ1グループ6人程度、全12グループ)以下3点について考えワークシート(文末参照)に記入した。

- 文化領域の学習目標を決める
- 文化事象を決める
- 実際の授業の流れを考える

(3) 共有 10分

他の言語のグループが作成したワークシートを見て回り、ポストイットにコメントを記入し貼った。

(4) ふりかえり 25分

自分たちのグループに寄せられたコメントを見ながら意見交換するとともに、今日のワークショップで学んだこと等の感想をポストイットで記入し、グループ内で共有した。

ワークショップ終了後、TJFの事務所に移動し、懇親会を実施。41名(運営スタッフ除く)が参加した。

#### ■成果:

外国語授業実践フォーラムとTJFの共催事業として企画された本ワークショップは、定員50名を大幅に上回る72名の応募(一部キャンセル有り。運営スタッフ除く)があり、多くの方に注目された。参加者の担当する言語は、9言語と多岐にわたり、異なる言語を担当する教師間にネットワークの場を提供することができた。「めやす」を初めて知った参加者もあり、「めやす」に対する関心と理解を深める機会になると同時に、外国語授業実践フォーラムの活動を多くの方に周知することができた。

ワーク終了後にとったアンケートからは、こうした学びの機会に対するニーズがうかがえた。また今回学んだ内容を実践につなげようとする参加者も少なくなかった。

参加者のコメントは以下の通り。

「同じテーマで今回の続きをやりたい」

「地元地域に刺激を与えるために全国を同じテーマで巡回してほしい」

「一日掛けてやりたい」

「泊り込みでワークに取り組みたい」

「時間の余裕があれば、もっと深くまで議論したかった」

「事前から参加者個々で準備ができれば、より時間を有意義に使えた」

「“わかる”“できる”“つながる”の3つ(「めやす」が外国語教育の目標として掲げている能力)を、今まで分けて考えていたが、すべてを結びつけて教えることの重要性を認識した」

「今回学んだことを授業に生かしたいと思った」

「今すぐにでも取り組んでみたい内容と出会えた」

■課題：

● ワーク時間の不足

「時間的余裕がもっと欲しかった」との意見が圧倒的に多かった。ワークでは、参加者は深い議論ができず、消化不良になってしまったり、他のグループが作成したワークシートをゆっくりと見る時間をとることができなかった。講演では、初めてこのような内容を聞く参加者に対して時間が十分でなく、消化できない側面もあった。

● ファシリテーター不在でのワーク

今回はグループ数が多かったこともあり、特にファシリテーターを設定しなかったが、グループごとの理解度にばらつきがあり、ワークを進めづらかった。

■今後に向けて：

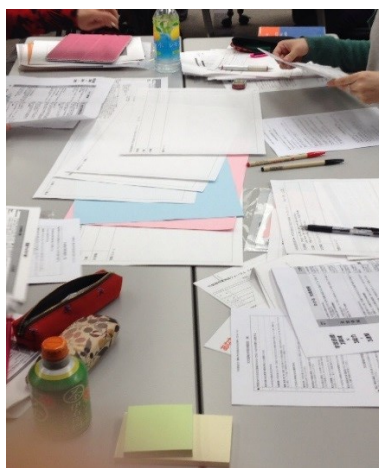
今回はテーマが“文化”と大きなくくりだったため、このテーマを更に掘り下げた学び場が必要だと考えている。また、「評価についても触れて欲しい」、「ICTを使用した授業モデルについて学びたい」、「複言語・複文化能力の育成に繋がるという視点から、多言語混合で貴重な意見を聞きたい」等のニーズに対しても応えていきたいと考えている。

(文責：TJF)

■ワークショップのひとこま：



←講演者（中野氏）と会場風景



←グループワーク風景

【ワークで使したワークシート】

外国語授業実践 WS 「学びを深める”文化”の再考」ワークシート

グループ名：

文化領域の目標	
文化事象	
授業のイメージ	